

しらふじ

- 年
一
月

享保拾年巳ノ五月九日

辻

径210×高60 061

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

白藤遺跡群は、熊本市南西部の島町・鳶町・刈草町・白藤町にま



弥生時代中期から江戸時代にかけての複合遺跡で、微高地上に集落が立地している。今回の調査は第六次調査で、弥生時代中期・後期の土器・石器類と、中世・近世の土器・陶磁器のほか石製品・木製品など、大量

今回報告する墨書のある曲物は、近世の溝から出土した。遺構の

細かな年代は、出土遺物が未整理のため限定できていない。

8 木簡の釈文・内容

(1)

享保拾年巳ノ五月九日

辻

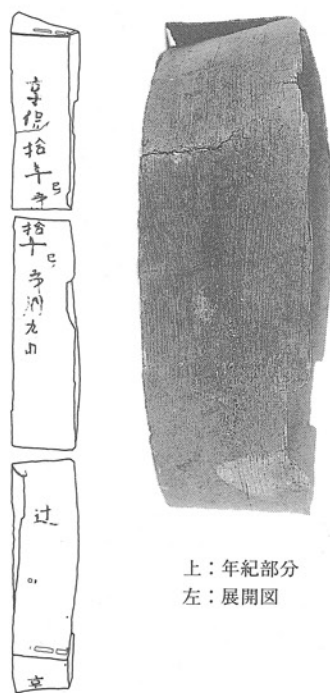
径210×高60 061

曲物の蓋の側板であろうか、釘跡らしき孔が穿たれている。なお、享保一〇年は西暦一七二五年にあたる。

9
関係文献

熊本市教育委員会『熊本市埋蔵文化財調査年報』三（二〇〇〇年）

(林田和人)



上：年紀部分
左：展開図